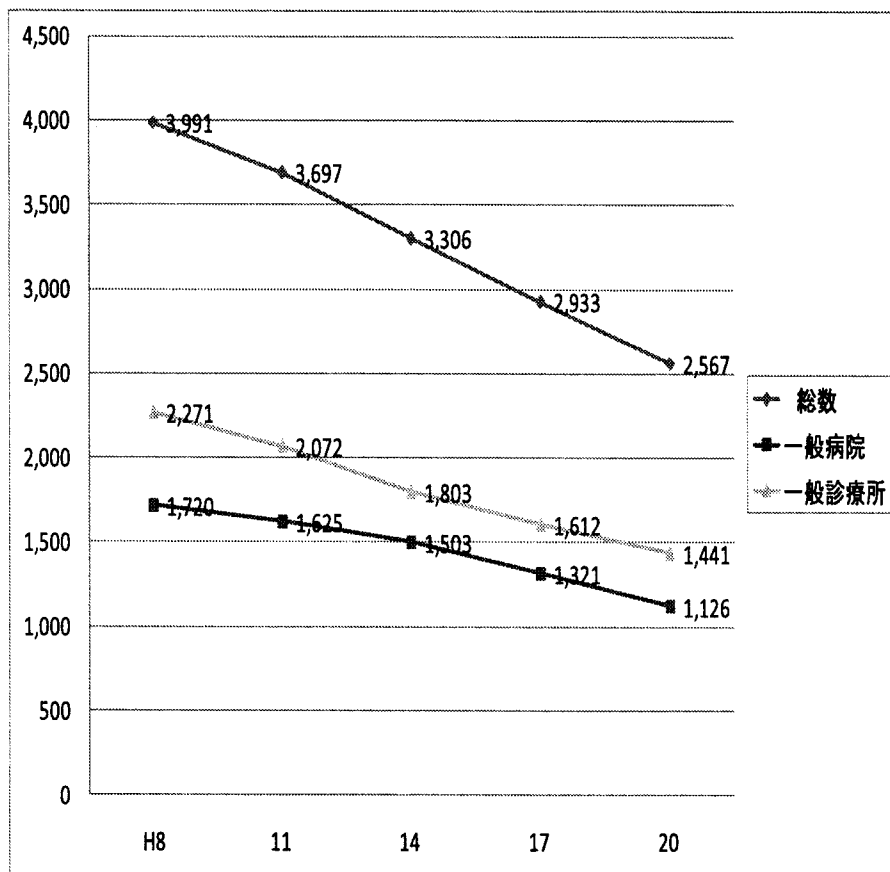


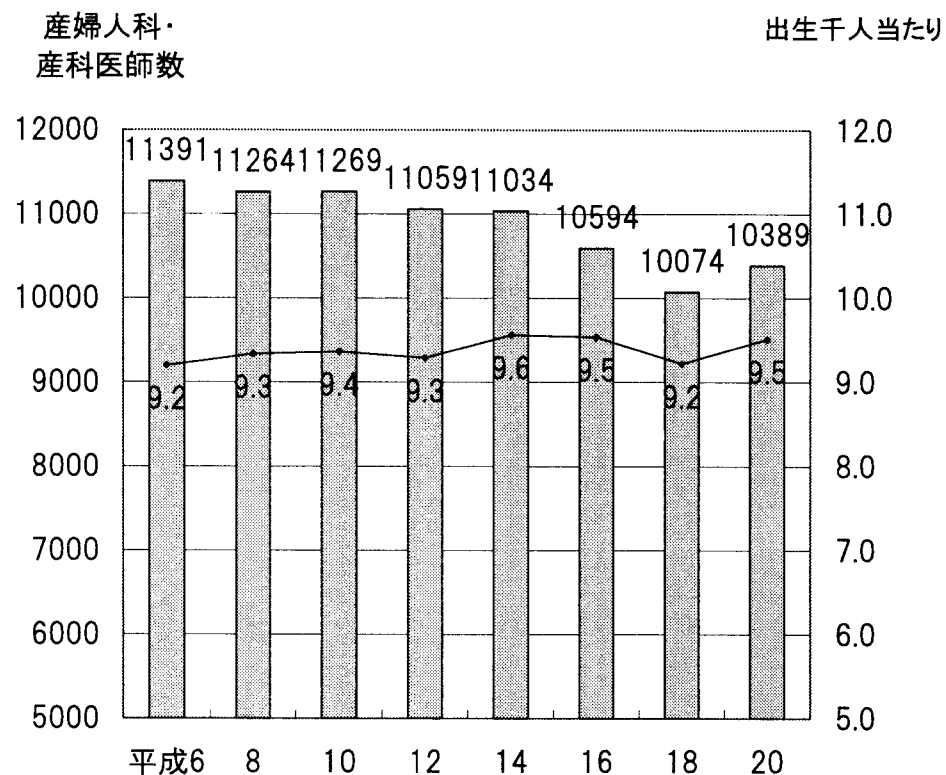
# 産婦人科・産科医及び分娩取り扱い施設の推移

産婦人科医数及び分娩の取り扱い施設及び産婦人科・産科医数はともに減少しているが、出生数の減少に伴い、出生数当たりの産婦人科・産科医数はほぼ横ばいで推移。

## 分娩取り扱い施設の推移



## 産婦人科・産科医数の推移 出生千人当たり産婦人科・産科医師数

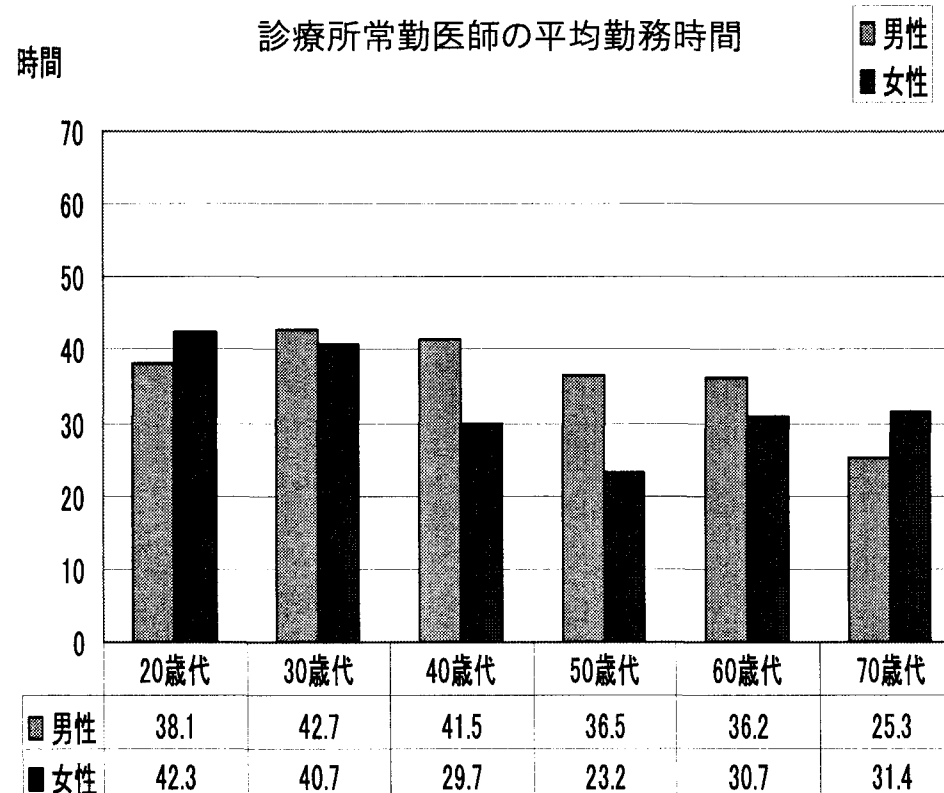
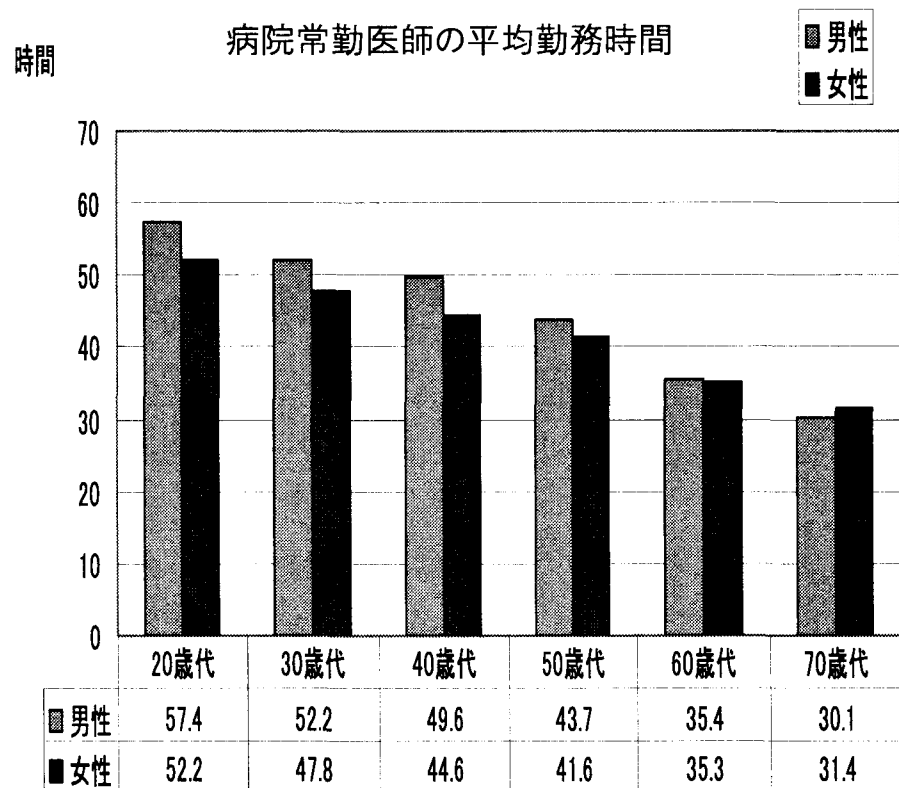


## 「医師需給に係る医師の勤務状況調査」による医師の従業時間

医師が医療機関に滞在する時間のうち、診療・教育等の時間を合計し、休憩時間・自己研修・研究を除いたものを従業時間とすると、年齢階級別の従業時間は次のとおり。

(病院常勤医の平均従業時間は平均で週48時間だが、診療所常勤医の平均従業時間は平均すると週40時間を下回る)

※ なお、休憩時間や自己研修・研究等に充てた時間を含めた、病院常勤医師が医療機関に滞在する時間は、平均週63時間。

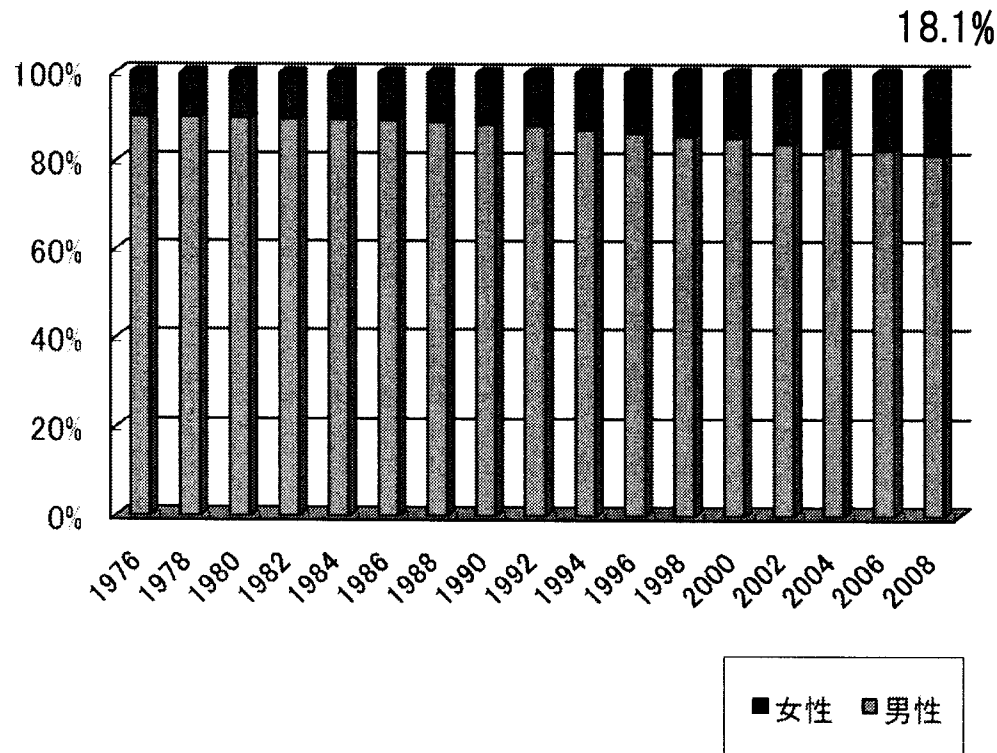


(出典)「日本の医師需給の実証的調査研究」

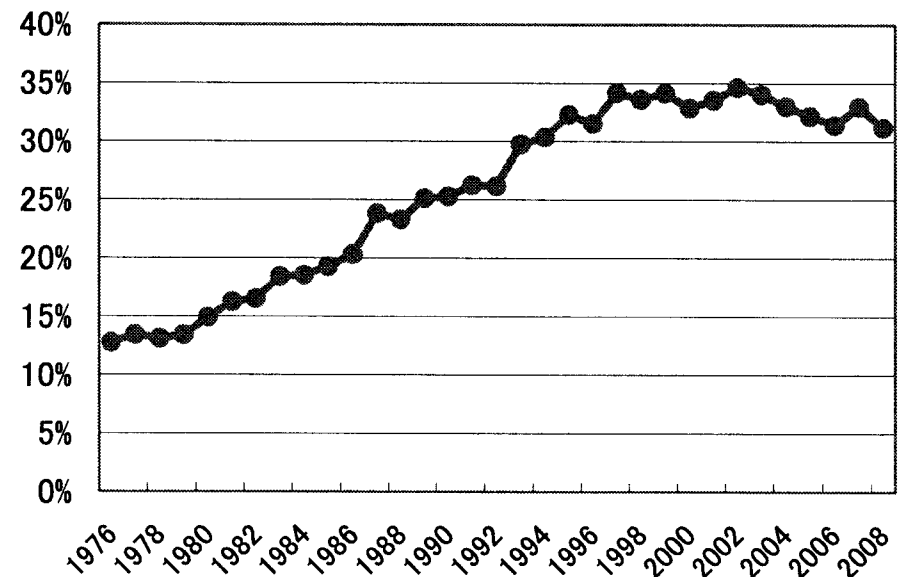
# 女性医師の推移

- 全医師数に占める女性医師の割合は増加傾向にあり、平成20年時点で18.1%を占める。
- 近年、医学部入学者に占める女性の割合は約3分の1となっているなど、若年層における女性医師の増加は著しい。

女性医師数の割合



医学部入学者数に占める女性の割合



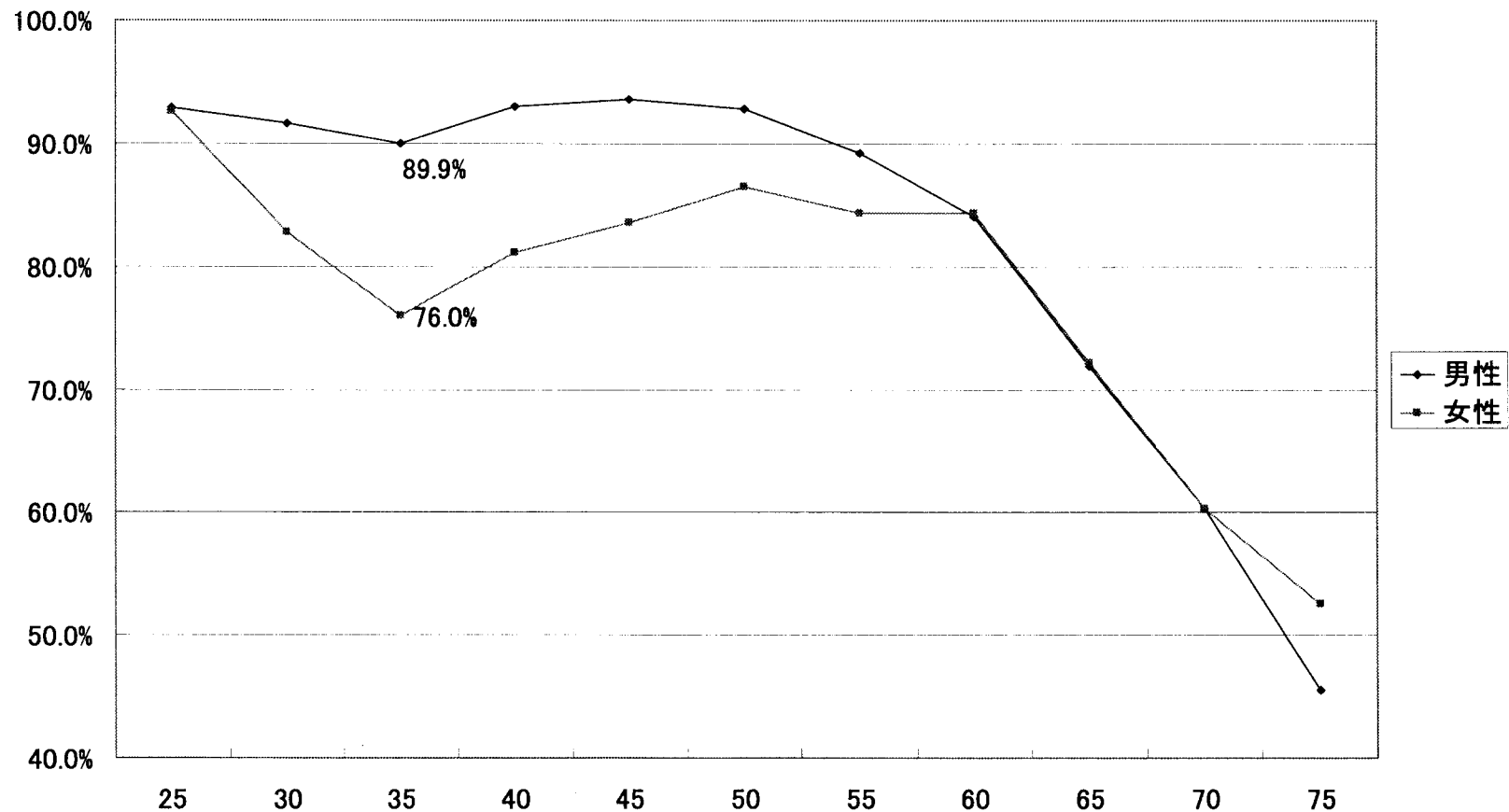
(出典)医師・歯科医師・薬剤師調査

(出典)文部科学省「学校基本調査」

## 女性医師の従業率のM字カーブ

女性医師が医師として就業している率は、医学部卒業後、年が経つにつれて、減少傾向をたどり、卒業後11年(概ね36歳)で75.5%で最低となった後、再び就業率が回復していく。

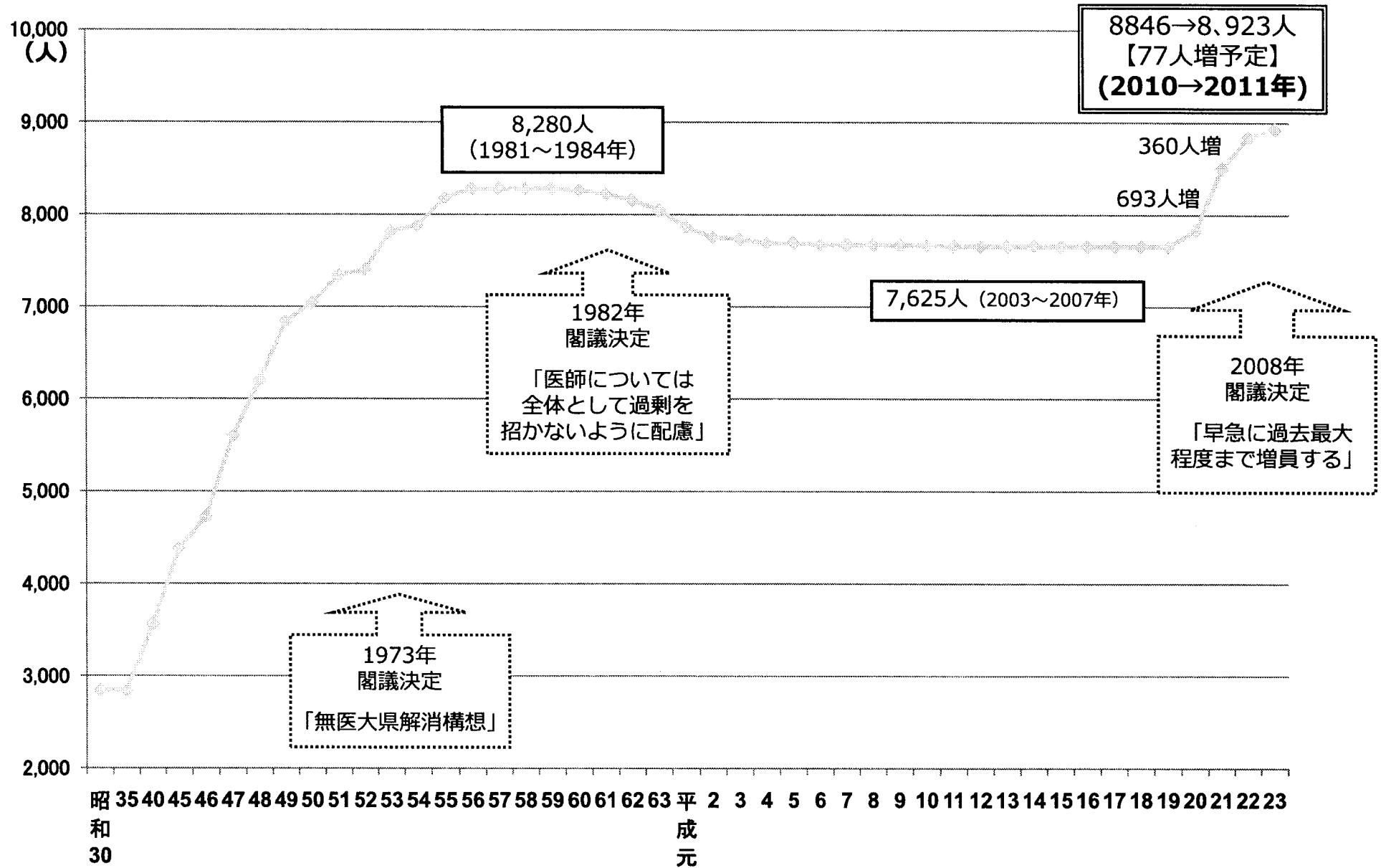
男性医師と女性医師の従業率



(注) 医師が25歳で卒業すると仮定した場合の就業率である。

「日本の医師需給の実証的調査研究」(主任研究者 長谷川敏彦)

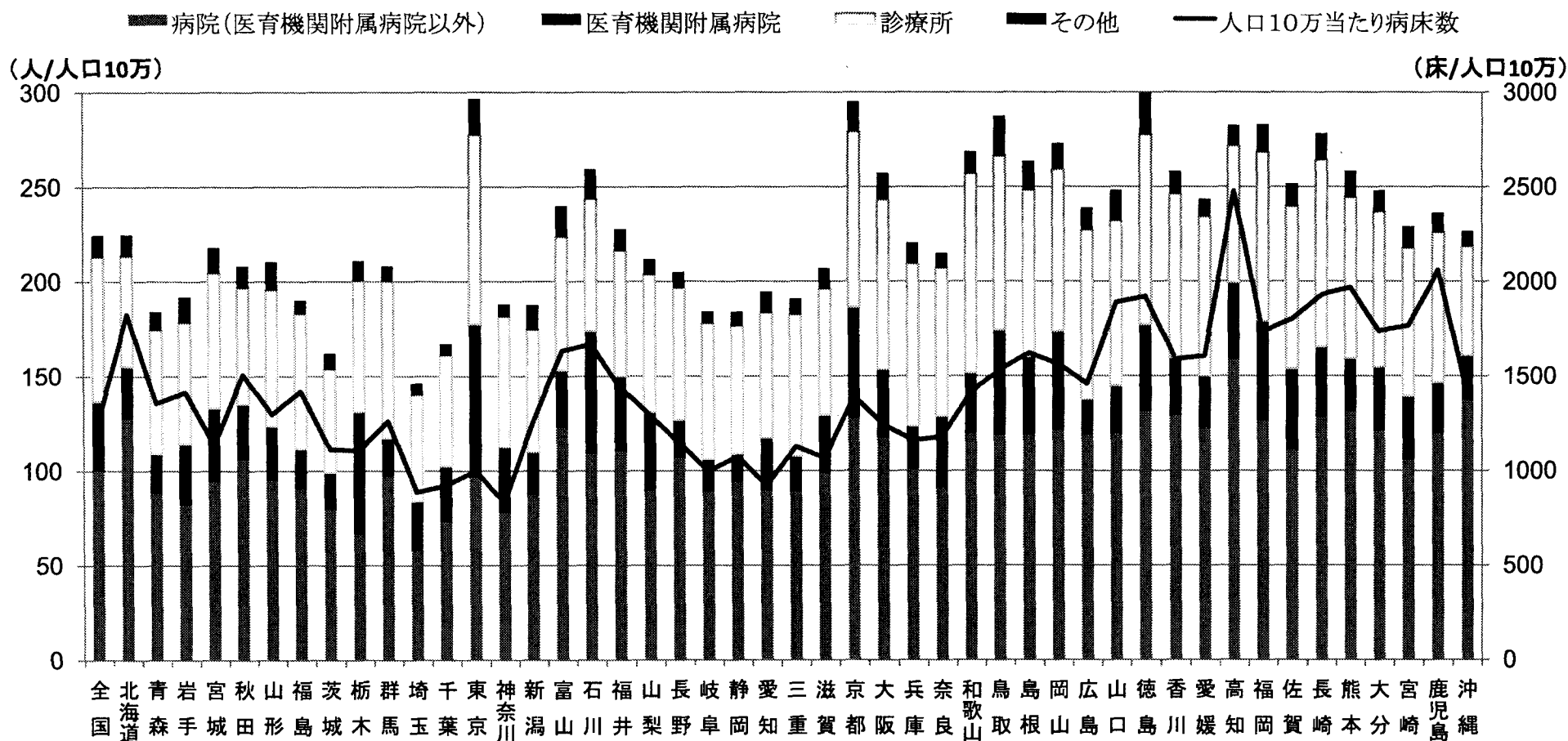
# 医学部入学定員の年次推移



# 人口10万人当たりの医師数(都道府県別)

医師・歯科医師・薬剤師調査(平成20年)で人口10万人当たりの医師数をみると、

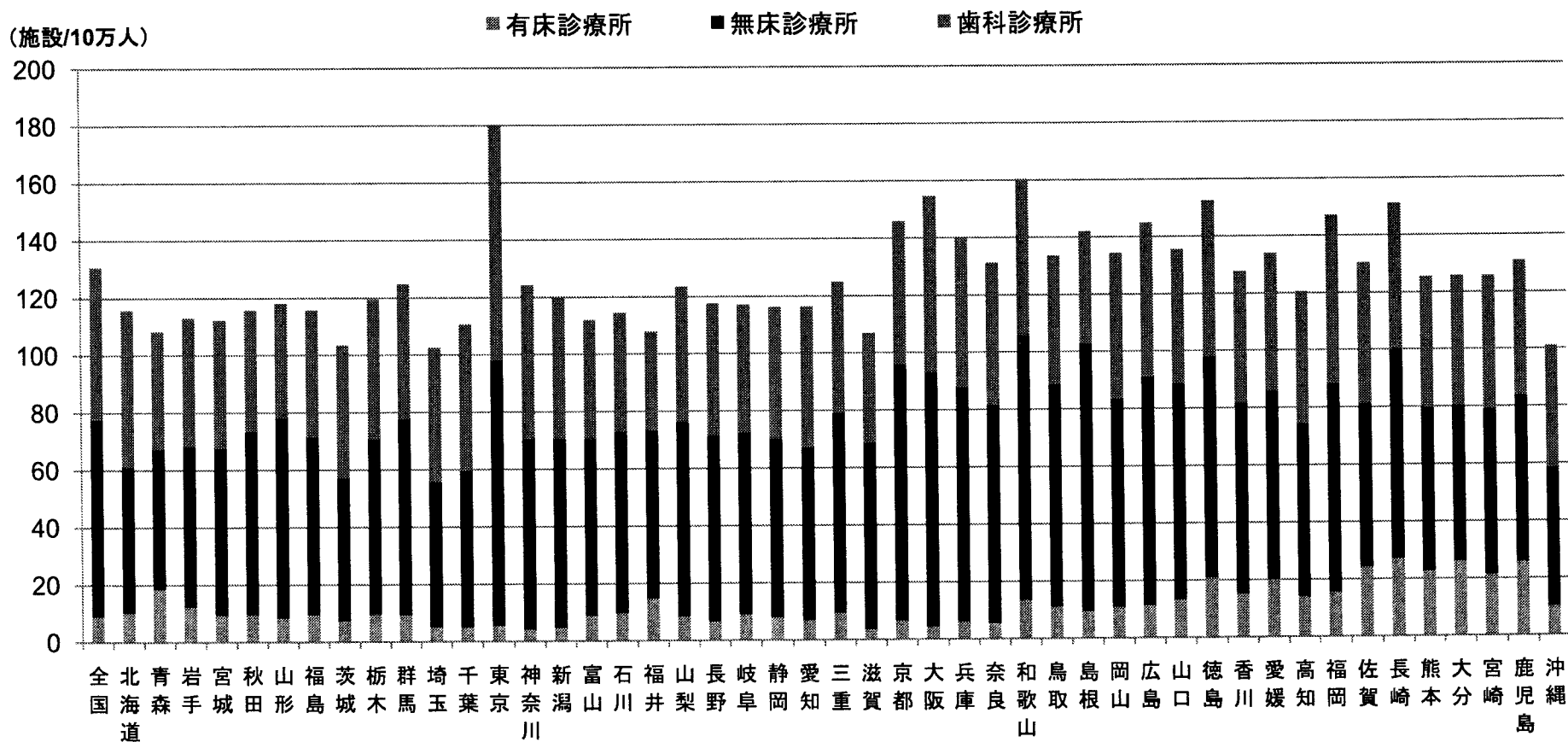
- ・ 全国平均で224.5人、都道府県別では、146.1人(埼玉県)から299.4人(徳島県)まで分布
- ・ 従事場所別にみると、病院が136.5人、診療所が76.5人。これを比率(病院従事者:診療所従事者)にすると、全国では約1.8:1、都道府県別では、約1.4:1(群馬県)から約2.8:1(沖縄県)まで分布という状況。



※医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査(各平成20年)に基づき作成

# 人口当たり診療所数(都道府県別)

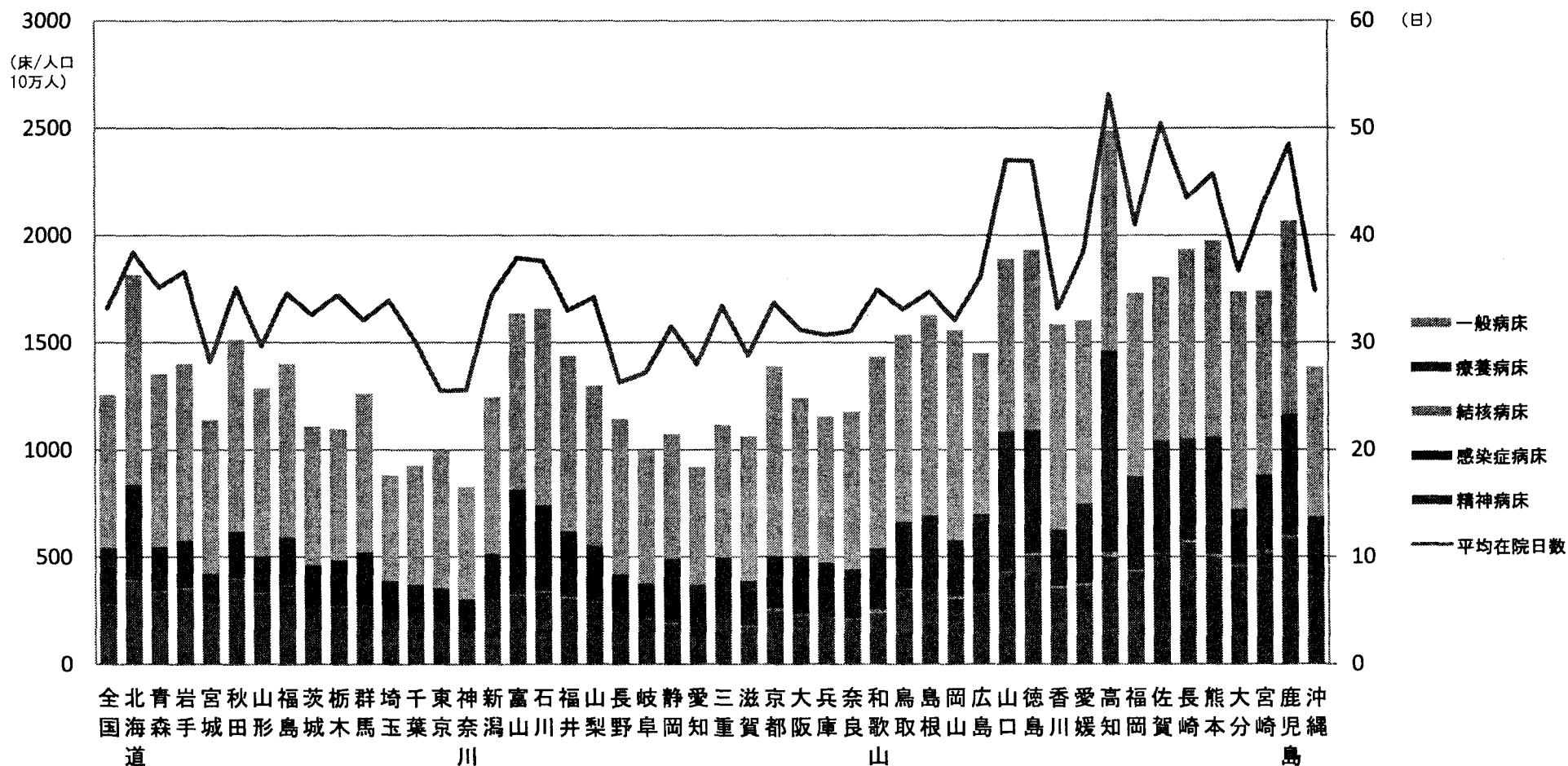
- 人口10万人当たり一般診療所数は78施設(うち、有床診療所が9施設、無床診療所が69施設)、歯科診療所が53施設となっている。
- 都道府県別にみると、人口10万人当たり種類別で、以下のように分布。
  - ・有床診療所 : 滋賀県の3.6施設(県内50施設) ~ 長崎県の27.2施設(県内391施設)
  - ・無床診療所 : 沖縄県の48.5施設(県内667施設) ~ 島根県の93.2施設(県内676施設)
  - ・歯科診療所 : 福井県の34.6施設(県内281施設) ~ 東京都の82施設(都内10,529施設)



※平成20年医療施設調査に基づき作成

# 人口10万人当たり病院病床数、病院平均在院日数(平成21年)

- 人口10万人当たりの病院病床数は、全国平均は1256.0床。  
都道府県別にみると、最多は高知県(2488.5床)、最少は神奈川県(826.7床)。
- 病院平均在院日数は、全国平均で33.2日。  
都道府県別にみると、最長は高知県(53.1日)、最短は東京都(25.5日)。



(出典)医療施設調査・病院報告

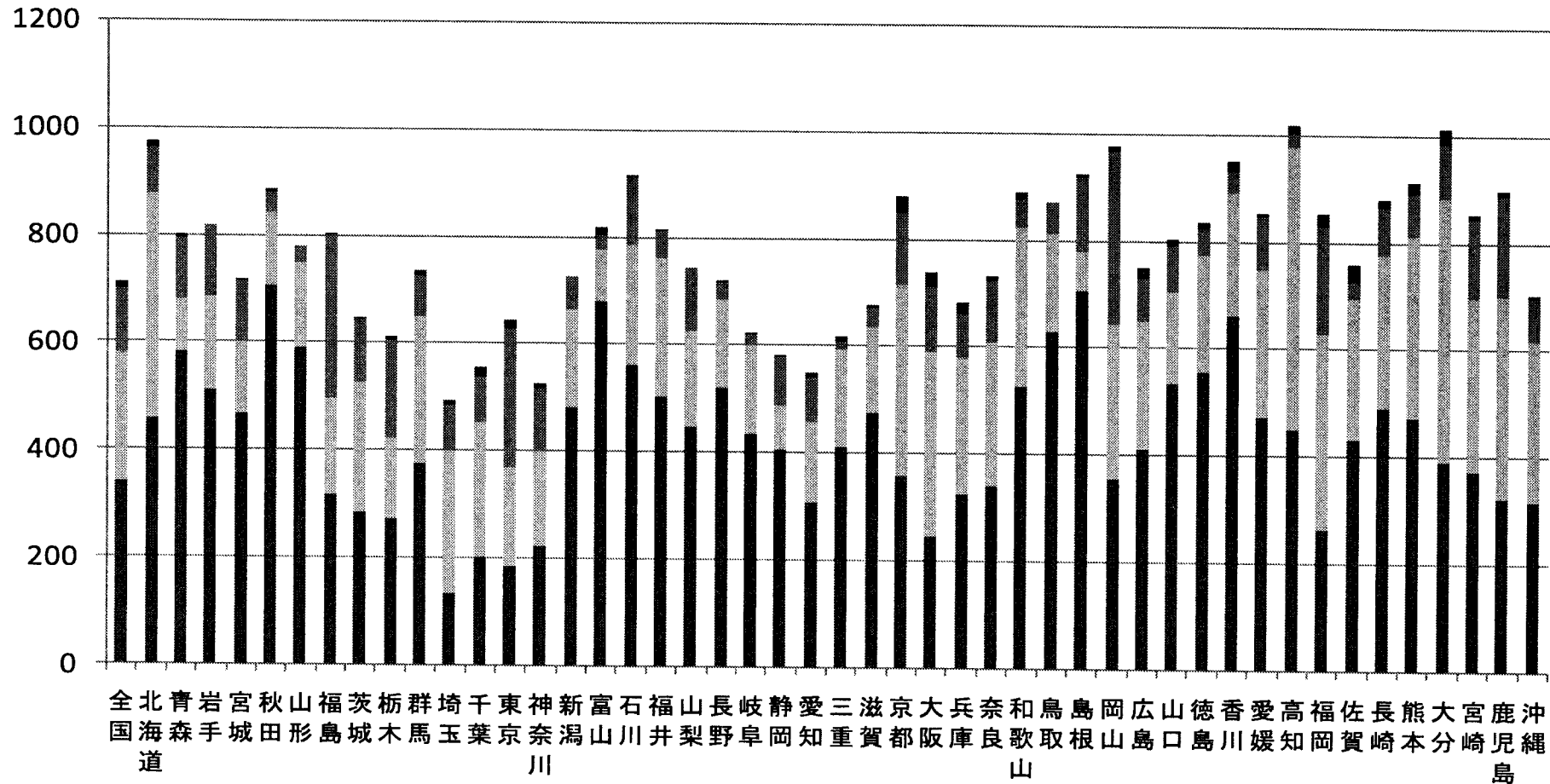
報告



# 開設者別人口10万人当たり一般病床数(都道府県別)

○ 人口10万人当たり一般病床を開設者別に分けてみると、国・公的・社保が338.7床、医療法人が239.1床、その他の法人が119.9床、個人が12.1床となっている。

■ 国・公的・社保    ▨ 医療法人    ■ その他の法人    ■ 個人



出典: 医療施設調査